



photo by Ghislain118 CC-BY-SA, from Wikimedia Commons

サイコ(柴胡)

語源

ミシマサイコ属 *Bupleurum* ブープレウムとは、ギリシャ語のブース「牝牛」+プレウロン「脇腹、肋骨」。葉の付き方が牛の肋骨を思わせるという説や、かつて牛がこの草を食べると脇腹がふくれると考えられたためとする説がある。種小名の*falcatum*はラテン語で「鎌状の」を意味する。
和名のミシマサイコは、静岡県三島地方で良い品質のものが採られたことに基づく。

基原

Bupleurum falcatum ミシマサイコ
セリ科 多年生草本

薬用部分

根

産地

中国、韓国、日本

主な成分

サポニン類：サイコサポニンA、C、D、E
ステロール： α -スピナステロール

主な薬効

解熱、鎮痛、解毒、鎮静

代表的処方

漢方処方用薬であり、精神神経用薬、消炎排膿薬、痔疾用薬、保健強壮薬とみなされる処方及びその他の処方に配合されている。



【小柴胡湯】

ショウサイコトウ

食あたりなどの胃痛、腹痛、吐き気、食欲不振、頭痛、口臭、舌苔、急性胃腸炎、胃酸過多症、口内炎、二日酔、回虫・胆石などによる胃痛（頓服）

（処方内容） 柴胡／大棗／半夏／人参／生姜／甘草／黄芩

【大柴胡湯】

ダイサイコトウ

腹壁が厚くて胃部が硬く、脇腹に抵抗圧痛があり、体格がよく胃腸が丈夫、酒好き、便秘気味で頭重、不眠、耳鳴り、血圧が高い、口渇、嘔吐、癇性で喜怒が激しい、痰の切れにくい喘息の咳、肩こりなどがあるものの次の諸症：肥満症、高血圧症、半身不随、胆石痛、胆嚢炎、急性肝炎、喘息、胃酸過多症、円形脱毛症、熱性伝染病

（処方内容） 柴胡／芍薬／半夏／大棗／生姜／枳実／黄芩／大黄

文献報告

【鎮静、鎮痛、解熱、鎮咳】

柴胡の薬理学的研究(第1報)：Crude Saikosidesの毒性ならびに中枢抑制作用

Yakugaku Zasshi, 1969, 89, 712-20

【抗炎症】

柴胡の薬理学的研究(第2報)：Crude Saikosidesの抗炎症その他の薬理作用

Yakugaku Zasshi, 1969, 89, 1367-78

※参考文献：「生薬単」「日本薬局方」「中薬大辞典」「牧野和漢薬草大図鑑」「和漢薬の事典」「日本薬草全書」

⚠ この資料は業者間取引用の説明資料です。一般消費者の方への販促資料としてはお使いにならないようお願いいたします。



健やかな未来を創る自然の力
福田龍株式会社

（お問い合わせ） 〒530-0047大阪市北区西天満1-5-11
TEL：06-6364-5861 FAX：06-6364-6562
URL：www.fukudaryu.co.jp